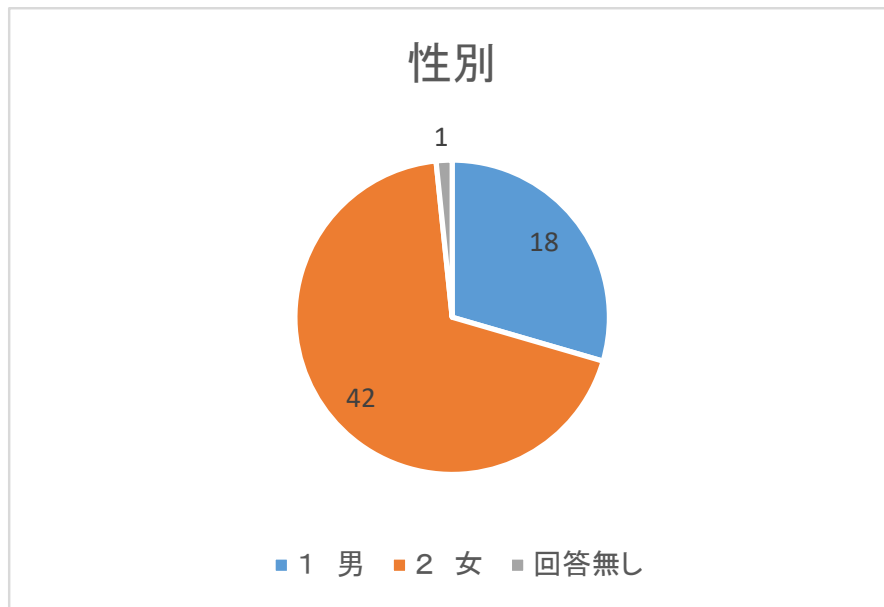


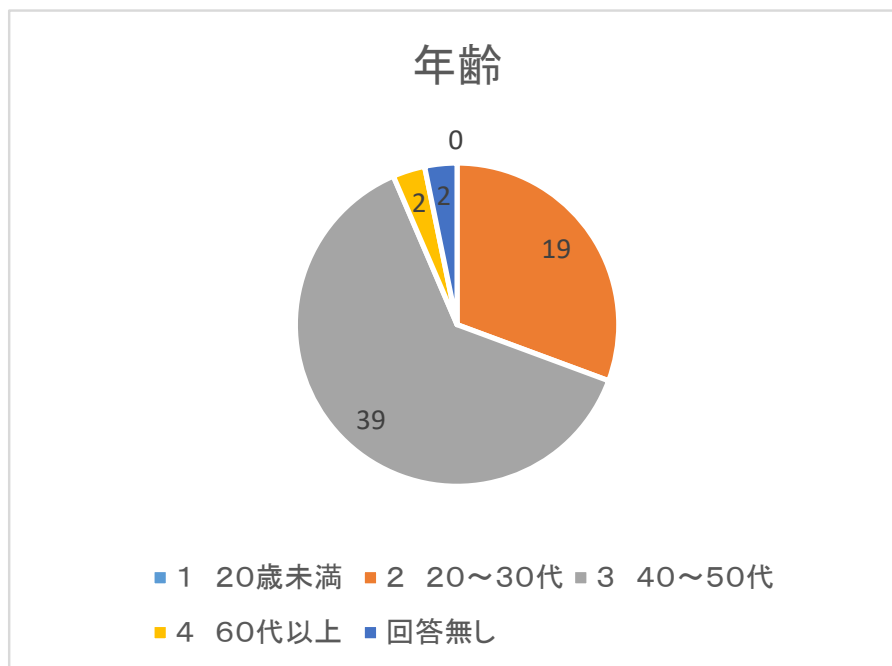
不登校の研修会アンケート結果（問1～問4）

アンケート提出者62名
参加者80名（スタッフ含む）
R6. 8. 1

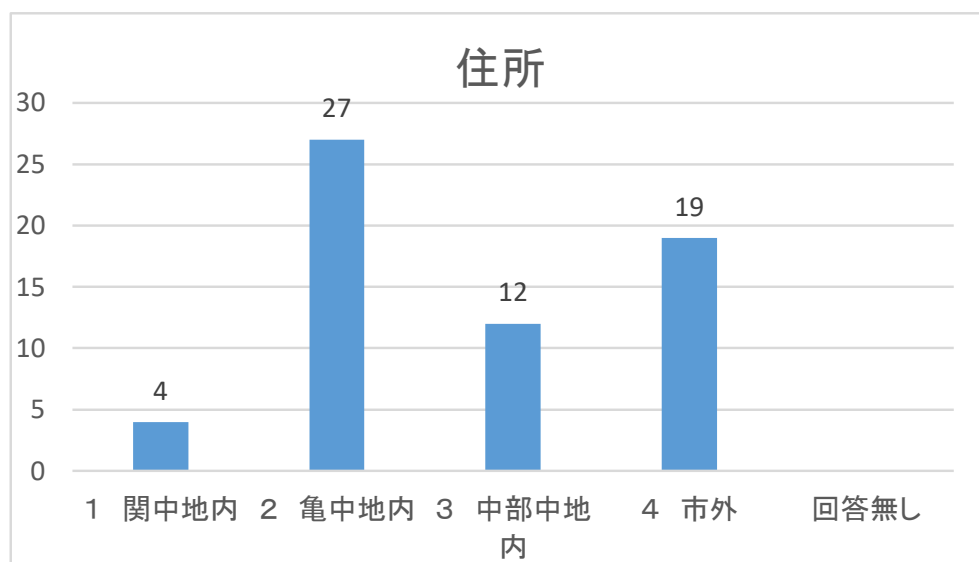
問1 性別を教えてください。



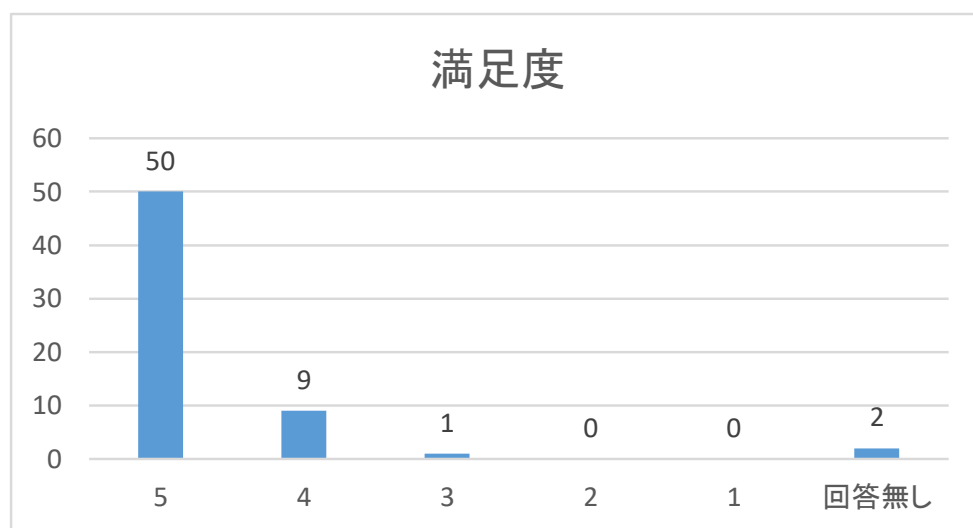
問2 年齢を教えてください。



問3 住所を教えてください。



問4 今回の研修会の満足度を教えてください。(満足度に○)



問5 今日の研修会の感想や意見をお聞かせください。

1	子どものニーズに対応していくことが大切と改めて感じた。こちらから見たら、違う原因だろうと思っても、子どもが〇〇で行けない、不安といって来たら、しっかり寄り添ってその話を聞いていきたい。どうしてもこちらとしては早く解決、学校に来てもらおうとするため、解決は急がない。
2	本人のニーズに沿って面接がまず大切であることを、改めて確認することが出来ました。本人の得意な事好きな事を活かせる場所どこか、社会との接点をどうするかを問題にして、面接をしていくことの大切さに気付けた。それに伴ってどんな場所があるのかを知っておくことが重要だと思いました。
3	失敗の事例を基に気をつけるべき対応の方法のヒントを知ることが出来て良かったです。「不登校」をポジティブにも捉えられる環境が生まれるといいなあと思います。
4	「子どもの要求とこちらの見立て、改善策が必ずしも一致しない」という話に、はっとさせられた。その時は「子どもの要求にまず寄り添う」という事は、今後も覚えておきたい。また不登校の子に限らず、相談に来たおうちの人に対して、まずは色々考えたうえでその場に来てくれたことに、感謝を伝えようと思った。
5	不登校について詳しく知ることが出来た。
6	子どものニーズ、保護者のニーズをしっかりと把握することの難しさを改めて感じました。「本来のニーズとは何か」を見極めていきたい。
7	様々な事例を聞かせていただいて、子どものニーズに合った支援を考えていく必要があると思いました。そのためにも子どもや保護者とコミュニケーションを大切にして、如何にそのニーズを知っていくかを、今後気をつけて行きたいと思いました。
8	こちらの思い込みで判断して、子どもに接してしまうことが多いなと改めて感じました。子のニーズを見つめ続けて支援したいです。
9	わかりやすい話でとても良かったです。うまくいってもうまくいった原因が分からなかったり、失敗と思ったことが実はよかったり、どの手立てが有効なのか。正解が分からないことも多いので、いろんな話を聞いて、ベストと思えることに、誠実に取り組むことが大切だと思いました。
10	子どものニーズにまず寄り添うことが大切であることを学びました。当人が今何に迷っているのかを丁寧に掘り下げていくことを心がけていきたいと思います。また、子どもを支えている保護者の方へのねぎらいとサポートを大切にしていきます。
11	久しぶりに志村先生のお話を伺えて良かったです。相手に安心してもらうための心情は、自分にも大いに当てはまる場所がありましたので、大変参考になりました。
12	志村先生のお話しの通り、価値観を押し付けて、または、自分の価値観を比較してしまう自分がありました。不登校児童・生徒のニーズは何か。素直に聞いてみることを実践したいと思います。一人で解決しようとせず、その子にあった人や場を提供できるように、様々な立場の人がチームとなって取り組むことが大切です。
13	久しぶりに志村先生のお話しをお伺いし、懐かしさとともに失敗例から導かれた対応方法について学ばせていただくことができた。志村先生でさえあり得るような失敗が、学校で起きないわけがない。ひとつひとつに事案に対して、チームとして対応したり、SC、SSW、外部機関等と連携しながら、目標設定することが大切だと感じた。特に当事者となる生徒の考え、ニーズをはずすことのないようにしたい。
14	事例を基にお話ししていただいたのでわかりやすかったです。子ども・保護者に良かれと思って行った行動が「実際のニーズ」に合っていないで、こちらの価値観の押し付けになってしまう。という事を肝に銘じて指導、相談にあたっていきたい。子どものニーズを満たすために一人で考えるのではなく、職場・保護者・関係機関と連携して独りよがりにならないようにしていきたい「子ども第1」
15	沢山の内容のお話しでしたが「子ども本人が何を望んでいるか」に教師が寄り添うことが、現在の最大のテーマであることがよく分かりました。
16	事例があることでとても分かりやすく学ぶことが出来ました。特に失敗例から学ぶことで「こうすればよかったのかな」という事を考える事が出来たのかなと思います。不登校の生徒や保護者との関わりについて何が正解かは分かりませんが、事例から学ぶことは、方向性を思い出す一つの方法なのかなと感じました。
17	成功例ではなく失敗例と言う視点はとても大切だと感じました。
18	「子どもがこちらの思いをくみ取って話をする」というところが、自分の腑に落ちました。
19	担任をしている生徒に当てはまる点があったので「なるほど」と思いました。相手のニーズを常に意識して、対処すべきであると思いました。不登校のタイプを学べて良かったです。一人で対処せず色々な人の意見を聞き、その生徒にあった方法を考えることが大切だと思いました。
20	自分の意見の押し付け・・・していなかったかを振り返ることができました。 価値観・・・今後も意識していきたいと思います。 また、子どもや保護者の思いを聞くこと 家では、自分が子どもの思いを聞くこと(こっちのが難しい)大事にしたいと思います。

21	2番目の事例での話で「自分の流れにケースを合わせない」という言葉がとても刺さりました。あらゆる角度・視点で子どもたちや保護者ともっと関わっていかないといけないと痛感しました。これからは保護者支援と子ども支援を分業しながらやっていきたいと思います。
22	自分が担任している子で不登校の子がいて、どう対処したらいいのかわからず悩んでいました。今日お話ししていただいた事例の中にもありましたように、本人を安心させるような言葉をかけたつもりが逆効果になってしまったということがあり、本人の気持ちを受けとめること。本人のニーズは何かということ。を探っていくことが大事だということがわかりました。
23	これまで何度か不登校のお子さんの担任をさせていただきましたが、本人のニーズに合った対応はできていなかったと思います。本人の思いを聞くことからして、していなかったと思います。自分の思いを押し付けるのではなく、きちんと子どもの話を聞き、本人のニーズに合わせた対応を心がけていきたいです。
24	今まで自分が担任した児童を思い返しても、似たようなことが多くあったと感じました。本人のニーズを正しくとらえたり理解したりすることの大切さを感じるとともに、「わかったふり」「決めつけ」に走ってしまう難しさを感じました。また自分の不安を相手の不安にかこつけてしまう。という話も凄く心当たりがありました。冷静に子どものニーズ、私自身の思い、保護者の方の考え、と分けて考えていけるようにしていきたいと思います。
25	不登校のタイプに種類がたくさんあることを知ることができてよかったです。不登校であることだけが原因なのではなく、いろいろな要因の元、そうなっていることが多いので、個々の事象に細かく見ていく必要があると思いました。
26	不登校になっても様々な型があることを初めて知りました。いろいろな事例から、何を大切にすべきなのか考えることができました。子どものニーズに寄り添っていくことの大切さや、多要因結実であるということも知ることができました。子どもたちとたくさん話をして、関わっていききたいと改めて思いました。ありがとうございました。
27	志村先生のお話大変参考になりました。失敗事例 私も山ほどあります。今回の事例と重なる内容があり、本人の特性から私の伝えたいことと違うとらえ方があったり、自分の放った言葉がずっと本人の中に残っていることもありました。今日教えていただいた内容も心にとめながら、今できることは何か考えて関わっていききたいです。ありがとうございました。
28	不登校にも様々なものがあることを知りました。その様々なものに自分はどのように向き合えばよいのか考える機会となりました。
29	久しぶりに志村先生のお話を聞かせていただき嬉しかったです。具体的な事例を聞きながら、自分が今までかかわってきた生徒たちの顔が浮かびました。何が正解なのかはわかりませんが、目の前の子どもたちにしっかり向き合っていきたいと思います。ありがとうございました。
30	学校に行けなくなるカードがあるならば、子ども自身が行きたくなるようなカード、学校に行かなくても自信を持って人生を進めていけるようなカードが何なのか。たくさんの引き出しを用意して適切なカードを出してあげられるといいなと思いました。
31	本人が何を望んでいるのかをつかむことが、本当に大切だと感じました。私のクラスは、7人中3人が不登校です。私の娘は不登校です。今年はどちらの立場も経験し、いろいろな見方ができるようになりました。今日のどのケースも「うんうん」とうなずいて聞きました。
32	まさに、本校でも支援の必要な児童・家庭とリンクすることについてのお話を聞けて、大変ありがたかったです。
33	今不登校傾向の子どもを2人担任しています。4月から保護者とのつながりを大切にしながら、学校・保護者だけでなく関係機関とも連携しながら、今も取り組みを進めているところです。日々どうしたらいいな、悩みながらいる中で、今日の志村先生の話聞いて2学期以降どうして行ったらいいか少し光が見えたかなと思いました。貴重な機会をありがとうございました。
34	子どもの訴えをしっかり聴くこと。自分の思い込みは捨てること。が大切であることを改めて自分自身に言い聞かせることができました。
35	自分がかけていた言葉は、自分の不安の表れだったんだということがわかりました。やはり、焦らず子どもの言葉を待って、一緒に考えていくようにしていきたいと思いました。二学期からの方向性が何となく決まりました。
36	不登校は要因が重なって起こることだとわかりました。
37	お子さんの姿 表情 お家の方の思い 自分自身が心の痛くなる場面が思い起こされながらお話を聞きました。ニーズが何なのか、感じられているか。感じていることやわかりたい。わかろうとしていることを、伝えようとしているか。心に留めたい。
38	子どもの心の状態に合わせた言葉がけの大切さを強く感じました。欠席が続き、これからの見通しが立たないとき、自分が不安になり、解決を急ごうとしてしまっていたことがあったなあと、井村先生のお話を聞きながら振り返りました。
39	志村先生のお話はいつもたくさんのヒントをいただけます。同じようなケースも多く、2学期から頑張ろうと改めて思いました。ありがとうございました。また、ぜひお願いします。

40	自身にも失敗経験がたくさんあります。年々不登校生徒も増え一人ひとり要因が異なり、日々悩みながら対応しています。また保護者への支援も必要で、今でも何が成功なのかわからないことが多いです。しかし今日のような研修で様々な事例を学ぶことによって、自身の対応を振り返る機会となり、今後何を留意すべきか本当に勉強になりました。
41	保護者と教員が一緒に研修できたのはよかった。保護者の考えをうかがってみたいと思った。
42	ありがとうございました。個人的な思い込みや価値観を押し付けているのでは、と思うことがあったなあと反省しました。気を付けます。学校に来てほしいことから、その気持ちを押し付けることなく、ニーズに寄り添いたいと思います。
43	子どもの特性を見るのではなく、本人の望んでいること。しんどいことを。気持ちを共感しつつ。しっかり聴いていくことの大切さを感じました。これから子どもと関わる中で生かしていきたいと思いま
44	どう関わっていけばよいのか。大切さが改めてわかった気がします。
45	いろんな事例を聞いてわかりやすかったです。
46	失敗から学ぶことで、自分はどうなのかなと、振り返りやすいなと思いました。子どものニーズに視点を当てながら、関係性を作っていくことが大切だなと思います。学校や保護者だけでなく医療も含めていろいろな関係機関とつながって、みんなで考えられるといいなと思いました。
47	志村先生でも失敗することがあるのかと思うと、心の荷がおりました。相手のニーズをはかりながら、自分の価値観で物事を進めないよう、ただの押し付けにならないよう気を付けつつ、対面していきたいです。
48	具体的な事例をお話しいただき、とても分かりやすくて良かったです。トランプのたとは、本当にそうだなと思いました。一つ一つ丁寧に困っていることは何なのか、本人の気持ちに寄り添ってこれから進めて行けたらと思います。ありがとうございました。
49	具体的な事例に沿ってお話しいただくことで、聞く側も想像を回帰しやすかったです。「押しつけ」「決めつけ」が如何によくないかがわかった。詳しくなるほど語りたくなるが・・・
50	志村先生のお話には、毎回深い学びがあります。今日学んだことを明日からの取り組みに生かしていきたいです。ありがとうございました。
51	不登校は、多要因結実なのだとことを知って納得しました。また神経的不登校や退避型不登校など、不登校には種類があることも改めて知りました。間違った登校刺激によって失敗した事例については実際に起こりそうだったのでとても勉強になりました。ありがとうございました。
52	自分が今まで接してきた子どもたちや保護者の顔が思い浮かびました。ケースに対して自分の思い込みで話してきたことがあったこと等があったと感じました。もう一度内容を振り返り、頭に残し今後に生かしていければと思います。
53	不登校の我が子に会うパターンがあり勉強になりました。
54	相手のために言っていたと思ったことが、価値観を優先して押し付けていただけなのかもということに気づかされた。支援者は保護者。その人の立場になって同調することが大切だと改めて感じた。
55	事例から学ぶことが多くありました。今後の実践に生かしたいと思います。
56	今まで出会った子どもたちの事例を思い出しながら、聞かせて頂きました。知らない間に自分の価値観を相手に押し付けてしまっていたこともあり、その時は、本当にうまくいかず、相手のニーズに合わせたら自然に教室に戻れることができたケースもあったので、うまく言った事例、失敗した事例を振り返って積み上げていきたいと思っています。
57	今日の話を聞いて、子どもや保護者と、私たちとの認識の違いが意外に多いと知らされました。まずは、そこを勘違いしないで、接していきたいと思いました。正直なところ古傷が痛んで苦しくなりました。子どもたちも複雑、保護者も複雑、でも私たちも複雑な苦しさがあります。
58	不登校は、多要因結実。妙に納得した。けど親としては、自己肯定感の低い子の味方になり「関心を持って聞いてくれる親」、なんでも話してもらえる関係性を作りたいと思った。学校の先生も子どもに寄り添って話を聞いてくれる先生。考えてくれる先生。がみえるのでありがたいです。
59	子どもの意思を考え、どうしてあげるべきかは、その子に関わるいろんな立場の人々で考えていかなければいけないことであることを、改めて考えさせられました。不登校対応は大変ですが、子どもや保護者の方に寄り添って、前向きな気持ちで関わっていこうと思いました。いろいろな事例ありがとうございました。
60	「不登校は、状態像の言葉で、そこには何も価値基準は無い」という言葉が印象的でした。振り返るとマイナスのイメージを持っている自分やそれをもとに押し付けの言葉や行為を行っていたのかもしれないと反省しきりです。
61	不登校とは学校に行っていない状態。それを負と考えていた自分(学校は行かなければいけない)の考えを改めて考え直しました。子どものことをまず(ニーズ)について考えたいと思います。相手に自分の考えを押し付けている。ということを改めて勉強しました。1つの要因だけではないということは、特に印象に残りました。助けてくれる人を支えるのが支援者ということを心にとめておきたいと思っています。
62	子どものニーズを聞くことの大切さを教えていただきました。ありがとうございます。ほかの参加者の経験談が聞けて、視野が広がった気がします。ポーカールームの話は多要因結実のイメージがしやすいです。いつもわかりやすい話をありがとうございます。

問6 子どもを育てるにあたって、教育者や支援者に期待することがあれば自由にお書きください。

3	互いに歩み寄って、子どものより良い姿に向かって行きたいです。
4	情報共有を密にして、子どもの未来のために相談をさせてもらいたいと思っています。(保護者の
5	チームで相手の意思を尊重しながら進めていく。
6	保護者の方々と話せる貴重な場をこれからも作って頂けると助かります。
8	子のニーズを考える際に、教師一人っで考えていては、その立場からしか考えられないので、様々な視点から、意見が交流できる場が必要だと思いました。
9	いい方向に向かって行けるよう「前向き」な思いを持って関係者が進んでいければと思います。
10	共に連携して、本音で話し合っていくことが大切だと思います。
11	今後も一緒に考えさせていただく体制を学校も考えていきたいです。
14	小さなことでもいいのでお互いに情報共有し合い「子どものニーズ」に沿って支援を進めていきたい
15	今後もこのような機会を望みます。
17	わが子を客観的に見て欲しいが、保護者はなかなかそうは見えていただけないのが苦しい。
18	保護者支援を上手にタッグを組んでいきたい。
19	こうした研修ぜひたくさんして欲しいです。
21	今後も教員と保護者が「子どものため」に一緒に悩んでいけたらいいなと思いました。
22	その子のこと 子どものことを その子は何を望んでいるか ともに考えたいです。
28	子どものことをとてもよく考えてくださっている方もいるが、放りっぱなしの方もいるのでしっかり見てほしいと感ずることがあります。
30	教員として: ・学校に何を求めているのかはっきり言ってほしい ・子どもの声を聞いてほしい。 ・対応できないことがあることを、わかってほしい。 保護者として: ・学校だけの責任ではないことをわかってほしい。 ・頑張りすぎないでほしい。申し訳なくなってくるから。
31	保護者の思いや自動本人の思いを明確に学校へ伝える場の設定が必要である。
34	すべてのことにおいて、物事を第三者的立場(客観的)に立って考えられるようにすることは大切だと思う。人の意見は参考程度に持っておくことで冷静な対応ができると思う。だから学校も保護者も冷静に話し合うことで進むべき道が見えてくるはずと考えています。
36	子どもとしっかり話したり、話してほしいなと思います。
37	その子を支えているのはだれか。どんな状況であれまずはその人を支える。が心に残った。つながっていくことが大切だとあらためて感じた。ありがとうございました。
40	現在、様々な機関が増えているので、ニーズに応じて様々な視点から支えられるよう、多様な機関と連携することが大切だと思う。
41	子どものニーズをしっかりと正確に聞き取り、子どもの得意なことを見つけて伸ばしていく教育ができることを期待します。
44	学校へ来にくい子どもたちが、学校やその他のところへ行くためには、保護者やその周りの人が如何に時間が作れるかだと思います。送迎の支援をもっと考えてほしいと思います。
46	自分が子どもの立場に立ったらどうなのかなと、考えていくことが大事だと思いました。
47	不登校児を抱かえている保護者の方々と、特に同じ方向を向いてともに考えていきたいです。
49	保護者がもっと気軽に専門家に相談できると思う。SCが合わなかった。行政担当もあまり・・・な時に、時間がとりやすいポジションで
52	やはり、学校と家庭としっかりと話をすることが大切だと感じました。今後もこのような機会を設定していただきたいと思います。
53	保護者として参加しました。先生の立場や考え方と保護者のそれ。うまく話が合わないこともありましたが、第三者を交えて話ができるといいなと思います。
56	お互い遠慮せずに情報交換し、お互いの困り感を共有して、ともに同じ方向を向いて、子どもたちを支えていきたいと思っています。
58	子どもに寄り添いの姿勢で話ができる関係を築いてもらえるとありがたい。
61	このような機会を作ってくださいありがとうございました。ほかの学校の先生方の話も聞けて良かったです。
62	子どもを中心にして、それぞれの立場での見方を冷静に話せる場があるといいですね。